

NEWS RELEASE

令和7年6月30日

報道各位

全国農業協同組合連合会（JA全農）
全日本空輸株式会社

米穀の航空輸送の実証試験を実施 ～遠隔地への迅速な輸送体制構築を検証～

全国農業協同組合連合会（代表理事理事長：桑田 義文、以下「JA全農」）は、全日本空輸株式会社（代表取締役社長：井上 慎一、以下「ANA」）の協力のもと、6月30日（月）に米穀の航空輸送の実証試験を実施しました。

航空輸送は、スピードと長距離輸送の両面で優位性があります。今回、遠隔地からの急な出荷依頼に対応できるよう、航空輸送の実証試験を実施しました。本実証実験において使用した米穀は、JA全農が落札した政府備蓄米です。

当日は、埼玉県内の保管倉庫から羽田空港（東京都大田区）までトラックで輸送された玄米を航空コンテナに積み替え、旅客機の貨物スペースに搭載し、同日夕方に那覇空港（沖縄県那覇市）まで空輸。フレコンバッグ12本分（約12トン）の米が輸送されました。空輸された玄米は沖縄県内の精米工場で精米されたのち、沖縄県内の小売店などに出荷される予定です。

ANAは、「物流の2024年問題」への対応の一環として、特に昼間便の空きスペースを有効活用する提案をするなど「新モーダルシフト」の推進に取り組んでまいりました。このたび、全国各地への米の迅速な流通に向けて、新たな物流手段のひとつとして、JA全農に対して航空輸送を提案いたしました。

JA全農はこれまで、米穀の輸送手段として、米専用貨物列車「全農号」や船舶輸送の取組を実施しています。今後も、複数の輸送手段を組み合わせたモーダルミックス（複合輸送）を採用することで、全国各地への安定的かつ迅速な米の供給に努めてまいります。

【実証試験輸送の概要】

1. 試験数量 約12トン
2. 対象 玄米（JA全農が落札した政府備蓄米）
3. 発地 埼玉県内保管倉庫
4. 着地 沖縄県内米穀卸
5. 航空輸送区間 羽田空港（東京都）～那覇空港（沖縄県）

【各社コメント】

■ J A 全農 米穀部 部長 藤井 暁

これまで、物流の 2024 問題や米穀の安定供給の観点から、米専用列車「全農号」の運行や、フェリー・船舶を活用した海上輸送に取り組んでまいりましたが、航空貨物輸送の取組は実施しておりませんでした。遠距離向けに迅速な輸送をする場面があった場合に、輸送手段の 1 つに「航空貨物輸送」の選択肢が加わることで、遠方のお客様へ迅速にお届けすることができるのではと考えています。今回の試験結果を検証したうえで、今後の活用方法を検討していきたいと考えています。

■ ANA Cargo 上席執行役員 国内貨物営業担当 牧野 文明

航空会社として新モーダルシフトを進めるにあたり、昼間便の床下貨物空きスペースの有効活用等の取組を進めていたところ、今般、J A 全農様のニーズに合致してトライアル輸送を請け負うことができ大変嬉しく思います。国内航空貨物輸送が複数の輸送手段を組み合わせるモーダルミックスの一翼を担い、社会インフラとしての責務を果たしてまいります。

【画像】

以下よりダウンロードをお願いします。

<https://link.directcloud.jp/AIBv1aXbIN>

PW:0000

以上

報道機関からのお問い合わせ

J A 全農	広報・調査部 横田	TEL : 03-6271-8055
ANA	広報部	TEL : 03-6735-1111

A STAR ALLIANCE MEMBER 